

経営比較分析表

岡山県 倉敷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	74.54	99.91	1,879

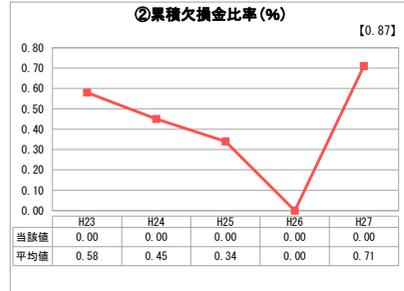
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
483,970	355.63	1,360.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
483,131	355.63	1,358.52

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

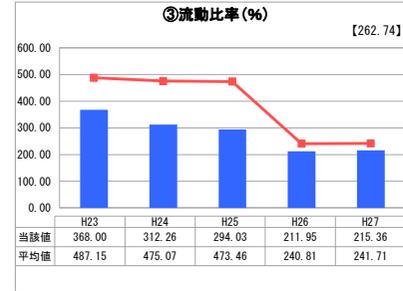
1. 経営の健全性・効率性



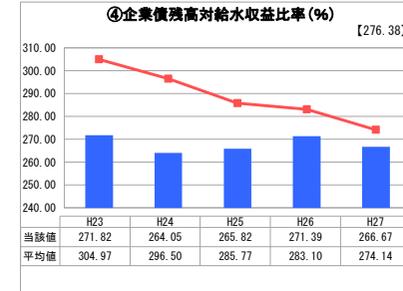
「経常損益」



「累積欠損」



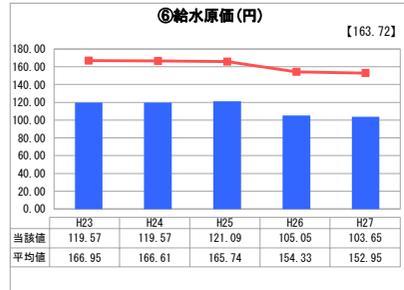
「支払能力」



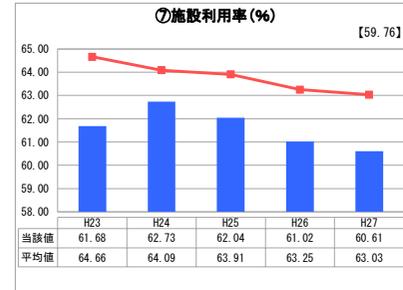
「債務残高」



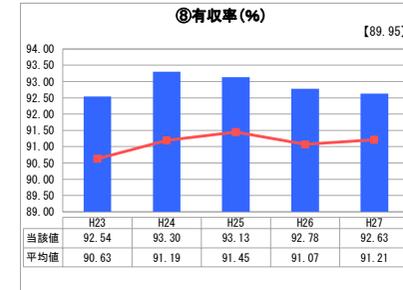
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

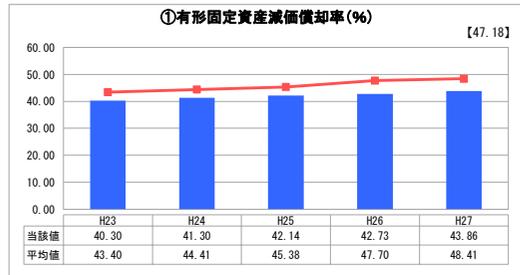


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

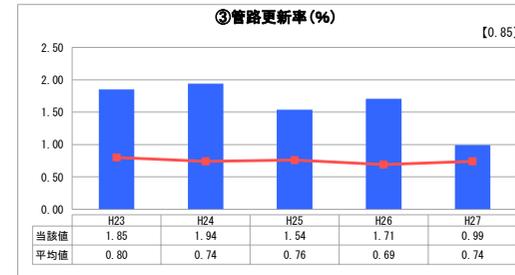
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

倉敷市水道事業は、類似団体と比べ料金水準が低いことから、給水収益に関する指標に關し、相対的に類似団体平均よりも低い数値となっているが、給水原価も低く、かつ、みなし償却制度を適用してこなかった中で黒字を維持しており、効率的な経営の結果が見て取れる。

企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均が下降している中で、ほぼ横ばい傾向を続けている。本市の企業債残高自体は減少傾向にあるため、給水収益の伸び悩みが影響していると考えられる。

有収率が高いことから、漏水量は少なく、現時点で管路の健全性は確保できていると思われるが、施設利用率の低下は効率的な経営の阻害要因であり、施設更新時には規模の縮小を考慮する必要がある。

2. 老朽化の状況について

各指標から、施設の健全性は他団体よりも上回っていると判断される。しかしながら有形固定資産減価償却率及び管路経年化率が上昇傾向で、法定耐用年数での更新が追いついていないことから、今後は更新需要が増加すると見込まれる。

また、安定給水のため水道施設の耐震性を一層向上させるといった観点から、施設更新時に耐震性を推進させるためにも、管路を含めた老朽施設の更新を積極的に行っていく必要がある。

なお、管路更新率については、過年度のデータに誤りがあるため、正しいデータを倉敷市水道局ホームページにて公開している。

全体総括

経営状況、施設利用及び老朽化等の各指標から相対的な比較では、経営、施設ともに概ね健全な状況を維持していると判断できる。しかしながら安定給水を維持するためには、老朽化が進行する中で耐震性を向上させる必要があり、更にはその資金を確保するため収益性の向上を図る必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。